

SGD002-11

会場: 201A

時間: 5月28日11:45-12:00

徳之島・沖永良部島の重力異常

Gravity anomalies of Tokuno-shima and Okinoerabi-jima

駒澤 正夫^{1*}

Masao Komazawa^{1*}

¹産業技術総合研究所地質情報研究部門

¹Geological Survey of Japan, AIST

平成20年2月に徳之島と沖永良部島で178点の重力測定を行い陸域の重力異常値の精度を確保した。編集面積は8,440km²、編集に用いた重力データの総数は1,263点である。海域については、地質調査所による白嶺丸の航海データ（調査航海名: GH755）と海上保安庁海洋情報部の測量船昭洋と拓洋の航海データ（調査航海名: HS7501, HS8203, HT861016, HT861102）を編集し、ブーゲー異常としたものである。徳之島については、北部の崎原崎周辺、金見崎周辺、大和城山～美名田山の山間部は負の残差重力域を示し古第三紀花崗岩の分布域に相当し、周辺の四万十帯白亜紀の付加体に比べ密度が小さいことを示している。天城山周辺や井之川岳周辺には正の高残差重力域があり先新第三系の付加体の密度が大きいことが顕著である。沖永良部島の残差重力については、島の西部と東部で大きく、越山周辺の中中部で小さくなっており、四万十帯白亜紀付加体と古第三紀花崗岩の分布に対応している。特に、西部の大山周辺には南北に伸びる2mgalを越す高残差重力が顕著でこの周辺に分布する付加体構成岩に密度が大きいことを示している。

キーワード: 徳之島, 沖永良部島, 重力異常, 残差重力

Keywords: Tokuno-shima, Okino-erabi-jima, gravity anomalies, gravimetric residual